

ひでお行動

VOL. 15

<http://www.hideo-y.org/#top>
吉泉秀男の毎日の動きがわかります。
ホームページをご覧ください。

【ドイツ視察行動】

5月2日

6時半宿舎をでて成田空港へ。8時の集合ギリギリ着く。

神風英男（外務員会筆頭理事、民主党）田中和徳（自民党8期）米長晴信（民主党参議員）丸川珠代（自民党参議員）亀井亜紀子（国新参議員）揃う。トーマス在日大使一等書記官案内、9時半出発、12時間かけてフランクフルト空港（ドイツハブ空港）着、乗り換えて一時間半要



してベルリン・テンプル空港着、時間差は7時間である。現地時間は5時過ぎ、ホテルに着きベルリン市内散策し夕食、案内は米長氏、彼は朝日テレビドイツ支局長から参議員に転出した議員であり、ドイツ語も市内も明るい、今回の視察では頼もしい議員である。電気自動車受電中、東西分裂された壁、壊された壁が歴史の証、

観光用としてホテルの前に立っている、8時を過ぎても明るい、ドイツのビール、料理美味しい。

5月3日

8時ホテル出発、あいにくの雨で2時間バスから市内視察、太陽光利用設計の建物、ベルリン市内で7840箇所登録されており電力15400kW 大学授業料無料であり学生のベンチャー企業も積極的である。



10時 連合博物館視察、意見交換



西側連合軍（米、英、仏）による1945年から1994年にかけての活動や役割についての展示されていた。ソ連との対立、終戦直後から厳しい対立時代の状況、米軍に対するドイツ国民の気持ちの変化が展示物が教えてくれている。館長による説明の後フォークト博物館顧問（元社会民主党議員）より説明なされた。現在普天間基地移設問題が課題となっているが、ドイツでは米軍駐留歓迎という立場、地位協定に対し大らかな態度、駐留経費はアメリカ負担、言うべきことは主張する対等の立場である事を強調

12時半 ベルリン日独センター視察、意見交換

1985年、中曽根総理、コール首相の提案により設立される。経費は日本とドイツで負担している。現在日独間には約300の大学連携事業、姉妹校関係があり留学・派遣から共同開発、プロジェクトまで進んでいる。今年は15周年でありドイツ、日本において学術、文化事業など多彩な事業企画している。昼食を挟んでの交換会はテーマを定めず安全保障、エネルギー問題等幅広い分野で話された。私の席は所長の隣所長は4年前に経済界シンクタンクから転出、日本語は上手で関心事は新政権の外交問題

であり日独友好積極的・・・14時半からのエネルギー機関との意見交換会が延期になり予定時間大幅に延長、その後、菓子店「ラビーン」に向かう。この店はドイツ菓子「バウムクーヘン」専門店でありポツダム宮廷御用達の店でもあり、日本はじめ世界各国送られている。私もお土産として買うが、全員が買い品切れになってしまう。

17時 連邦首相府、外交安全保障担当補佐官と意見交換



ドイツの状況説明のあと、政権交代後新政権の北朝鮮問題ははじめ日本の安全保障政策について質問がなされる。EU、NATOの中心的役割、特にボスニアヘルツェゴビナにおける部隊の指揮をESOPに委譲した以降紛争解決に向けて自己の資金と兵力で解決していくとの方針で、その中核としてドイツが努力してきているからこそ鋭い質問であった。民主、



自民、国新そして社民の参加者であり安全保障政策一致しているものではない事に理解求めながらも、新政権になっても被爆国として世界平和に向けて努力している状況を説明した。その後 米長氏紹介で美味しいドイツ料理店で夕食、目当ては白いアスパラ料理、今が旬なのである。太くて長い。5本も出されこれだけで満腹になる。

5月4日

朝8時15分ホテル出発、ポツダム気候変動

影響研究所へ向かう。高速道路を走りながら旧東ドイツの風景を見る。ポツダムまで林の中を走っているような感じである。研究所は街の中の丘にある。アインシュタインが生まれたところでもある。地球規模での気候変動調査研究、持続可能な社会に向けて学識知見から調査研究を世界に発信している。研究所には世界から学者研究生が集まっている。2050年までCO2削減80%目標も理解できる。25%削減、それも他の国々の動向を前提としている日本とはまるで違う。途上国と先進国、また先進国の中でも食い違いのあるCO2削減、まずは今国会審議している「地球温暖化対策基本法」可決に向けて全力を挙げ、地球温暖化に向けて具体的に行動をおこしていく。



12時からドイツ学術政策財団・国際安全保障研究所

EUの中で一番大きい独立した政策研究集団である。160名のスタッフでテロ、原理主義、アジアの諸課題等それぞれテーマを設定し調査研究しドイツの政策に提起している、政権のシンクタンクではなくあくまでもドイツのシンクタンクである。出席してくれたスタッフ10名は日本、アジアが抱えている課題をテーマに研究しているメンバーであった。ここでの提言された政策がどのように具現化されていくのか、政権が変わった場合どう活かされていくのか時間が短く残念であった。後日大使館を通じて教えて頂くことにする。



14時半から 昼抜きで政党系政策財団と意見交換

学術政策財団との意見交換したからなのか「政党系政策財団」について、私達には理解出来なかった。それぞれの財団が政党系のシンク

タンクでありながらも政党とは一線を画すと言う。一財団の職員は数百名、世界各地に事務所も持っていると言う。経費はすべて国からの交付金である。政党との関係について、後日教えて頂くことにする。尚、意見交換したのは社会民主党、キリスト教民主同盟、自由民主党、の政策財団の代表である。



17時ボルン外務事務次官と意見交換

ドイツの外交・安全保障政策はEU、NATOを軸に大西洋関係のバランスを大事にしている。メルケン首相は旧東ドイツ出身である。サルコジ大統領と並んでEU首脳の中でも大きな影響力を持っている。特に、ロシアに対しては「信頼できるエネルギー供給国」として振る舞い内政についても人権や民主主義について注文つける。中国にしても経済を重視しつつも言うべきことは言う立場を鮮明にしており、オバマ政権とも2度渡米し気候変動、核問題、積極的な経済外交の立場が強調された。日本の新政権に対する期待が大きかったが、時間の関係で意見交換より次官の説明でドイツの外交政策を勉強する意見交換になった。多忙の中次官が多忙の中私達の為に時間をさいてくれた事に感謝



19時半 ドイツ連邦議会外務委員長。外務委員主催の夕食会

ドイツ議員協会会館での夕食会、会館は議員のサロンの場でもある。外務委員会委員長、キリスト教民主同盟、社会民主党の外務委員会委員も同席してくれた。議会開催中にも関わらず委員長、時



間をさいてくれた事に感謝



づけされ、徴兵制度の堅持、NATO安全保障機構の中での活動、その中においてアフガニスタンはじめ6600名の軍人が派兵されている。その指揮司令本部の組織内容について意見交換。私にはナチス、ヒトラー軍事政権が頭に浮かぶ。特に好転しないアフガン情勢、犠牲者を出している現実、平和と自由、民主主義を求め戦い続けてきたドイツの歴史・・・日本と軍事同盟を結び敗戦以降、分断されたドイツ、再統一したドイツ、私達にはわからないドイツの苦労、犠牲のうゑに今のドイツがある事・・・

「再生可能エネルギー」機構

エネルギー効率向上、再生エネルギー利用拡大に向けた研究、システム開発、そして政策提言などドイツのシンクタンク的な面を持つ機構である。ポツダム気候変動影響研究所は学術研究であり違う任務である。残念だったのは1時間近く説明がなされ質問時間がなく、又、今回農村地域やエネルギー生産さ



5月5日

快晴である。
ホテル9時出発
10時 ポツダムにある連邦軍派遣部隊指揮司令部訪問し、概要説明、意見交換
冷戦構造の崩壊

に伴い、国防政策も見直しが行われ連邦軍の改革が進んでいる。連邦軍は国際的に展開されている多国籍軍の部隊として位置

れている現場を視察できなく残念であった。全量固定価格買上げ制度、排出権取引制度など聞いたかったことは後日大使館を通して質問することにする。



独日議員連盟会長夕食会

独日議員連盟の活動は活発であり今月、連盟の一員が訪日する予定であると聞かされる。日本も議員連盟があるが、自民党長老が役員であり、政権交代以降活動休止状態である。活動再開しなければ・・・キリスト教民主同盟、社会民主党、自由民主党、みどりの党代表が出席し意見交換、みどりの党からは日本の地球温暖化対策に質問され、私から今国会で審議されている基本法について説明し理解を求めた。

5月6日

雨である。8時45分ホテル出発し「壁」の博物館へ



1961年8月13日西ベルリンは旧東ドイツ武装部隊によって完全封鎖され「壁」の建設が始まる。それ以降取り壊される1989年までに5千人以上が自由と平和を求め、壁を越え逃亡してきた内容、テクニクなど生々しく展示されている。「壁を巡る事件と歴史」「地下にも及んだ逃亡劇を生々しく物語る実物展示」、ベルリンの街中中央で分断され壁があった。忘れないように道路に長くレンガで印されていた。青年部時代、東ドイツはソ連より着実に社会主義建設が進み、留学した私の友人もいたのだが、私の歴史認識が打ちくだされたような想いであった。

ドイツ連邦議会視察、意見交換

キリスト教民主・社会同盟ドイツ境民主党緑の党 自由民主党の代表と意見交換、しかし、ギリシャ問題で本会議開催されており表敬訪問のような儀礼的な交換会で終る。議会棟視察

日本大使主催夕食会

日本大使館もドイツの歴史と同じように歩いてきた。現在の館は1984年中曽根総理とコール首相の間で日独文化交流を促進する為に設立されたベルリン日独センターが主に使用する館であったがドイツ統一で大使館となる。神余大使から歴史的にも共有するものが多くあり、経済的にも日独関係を強くし世界平和に貢献していく為に力強いエールを頂く。最後の晩餐会でありそれぞれの想いが飛び交い10時半まで続いた。



5月7日

荷物を整理しホテル9時半出発、テゲル空港へ、テゲル空港は近日中取り壊され首都ベルリン空港とし新しく建設されると言う。お世話になったトーマス一等書記官、エイコ通訳、タケダ通訳そしてメッシング事務官とお別れ。フランクフルト空港へ、フランクフルトで阿部俊子議員とお別れ、阿部議員歯は関西空港へ13時45分成田へ出発



5月8日

成田空港に8時前に着く。時差7時間 少々時差ボケ。16の連邦州から構成されているドイツ、世界第3位の経済国、大学留学先としてトップスリー、旅行先としても人気がある。ここまで発展してきたドイツの政治、経済、社会構造など1週間滞在しドイツ感を新たにした。特に今回のテーマの「外交、安全保障」に対してドイツの歴史、ドイツ人の平和、民主主義を求めての取り組みなど多くの犠牲をだして今のドイツがある事を 後日改めて今回の視察感想をまとめる。